

沖縄の企業がサモアで安全な水の供給に挑む

JICA は、11月14日、サモア国での安定的な水道水の供給に向け、沖縄県の福山商事株式会社と業務委託契約を締結し、サモアでの「アラオア浄水場緩速ろ過池（生物浄化法）改善」に関する普及・実証事業を進めることになりました。

さんご礁に囲まれたサモアは、椰子の木が生い茂る緑豊かな国ですが、島嶼国としての問題も抱えています。高温多雨な気候にもかかわらず雨を吸収できない火山地質のため、雨季には河川に大量の土砂が流入し、濁水が浄水場へ入り込んでしまいます。浄水場の砂ろ過池は、微生物によって水をきれいにする生物浄化法を取り入れています。長期的に濁度の高い原水が流れてしまうとその処理能力を超えてしまいます。そのため、安全な水が供給されない事態も発生しています。

2012年に沖縄県で開催された第6回太平洋・島サミットでは、再生可能エネルギー導入の促進を支援することが表明されています。このサミットで採択された「沖縄キズナ宣言」では、沖縄県と島嶼国との地理的及び気候上の類似性に基づき、沖縄特有の知見や経験を大洋州の島嶼国の開発のために活用していくとしています。



清流時の河川



清流時の浄水場ろ過池



雨季濁流時の河川



濁水流入時の浄水場ろ過池

本事業では、沖縄の知見や経験を活用しながらサモアの水問題に寄与すべく、河川に小石の層を設置して取水

管を埋設する方法によって原水の濁度を下げ、首都アピア地区のアラオア浄水場の緩速ろ過池（生物浄化法）の浄水能力改善に取り組みます。この方法は、すでに沖縄県内の水道でも実績を有しています。取水管を埋設する際に逆洗管も取り付けることにより、泥などによる目詰まりを防止します。逆洗とは、取水する際に付着・蓄積してしまう汚れに対して、ろ過する方向と逆に水を流すことで汚れを浮かばせて流すことです。今回適用される逆洗管は、通常使用される水ではなく泡状の空気を排出することによって取水管の目詰まりを防ぎ、長期にわたり濁度の低い水を浄水場に取り込むことが可能となります。生物浄化法の性能を補うことで安全な水の提供だけでなく、薬品使用量の削減が可能となりコスト削減や環境保護に寄与することも期待されています。

この取組は、日本の中小企業を対象に、JICA が平成 25 年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」として実施されるものです。この事業では、日本の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたもので、平成 25 年 5 月に第一回の公示を行い、本事業が採択されました。JICA は、引き続き、支援国の開発課題解決に資する日本の優れた技術の普及を支援していきます。